

児童が主体的に読みを深める学習指導の工夫 ～説明的な文章における書く活動と対話的活動を通して～

八重瀬町立白川小学校教諭 大城 奈美江

I テーマ設定の理由

21世紀を生き抜く子ども達は、グローバル化の進展やAIの飛躍的な技術革新等、未知の状況に対応するために、自ら考えを持ち、他者と協働し粘り強く解決していく力を身につけることが必要と考える。新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」を通して、学びの質を高め、生涯にわたり能動的に学び続け、未知の社会にも対応できる児童の育成が重要だと示されている。国語科においては、全ての学習の基盤となる“言語能力”を支える語彙の量や質がこれまで以上に重視され、語感を磨き語彙を豊かにする指導の改善・充実が求められている。また、「深い学び」の実現に向けて、「言葉による見方・考え方」を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら、自分の思いや考えを広げ深める学習活動を設定することも重要視されている。「読むこと」の領域では、国語の時間に限らず、全教科や児童の日常生活に必要な「読解力」を高めていくことが重要としている。そして、「読む」「書く」を関連づけて論理的思考力を育成すること、「書く」ことで考えを整理しいろいろな表現につなげていくこと、「話す・聞く」「読む」「書く」の3領域を関連づけて指導をしていくことが求められている。

これまでの実践を振り返ると、説明的な文章の単元において、目的を持たせたり、読み取るための時間を設定し、読みを深めるための授業を意識して行ってきたが、具体的な読みの指導の手立てが不十分であったため、児童が自力で読み取ったり、読み取ったことを自分の言葉で筋道を立てて書き表すことが十分ではなかった。また、ペア学習やグループ学習の場面でも、読み取りが不十分なために自分の考えを伝えられず、特定の児童の考えが中心となり、意見の共有や比較、統合ができない状況があった。

そこで本研究では、児童が主体的に読みを深め、読み取ったことを筋道を立てて書き、相手に自分の考えを伝えることで考えを広げ深めていくことができるようにするために、説明的な文章において次のように取り組みたい。一つ目に、児童が主体的に読みを深め、理解していくために書く活動として、「読む」ことと「書く」ことを関連づけた手立てや筋道を立てて書くための手立てを工夫する。二つ目に、児童同士が互いの思いや考えを共有したり、比べたりすることで考えを広げ深めていくことができるように対話的活動を取り入れる。

以上のことから、説明的な文章において、書く活動として「読む」ことと「書く」ことを関連づけた指導の工夫、対話的活動を取り入れた指導の工夫をすることで、児童が主体的に読みを深めることができるであろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説と検証計画

1 研究仮説

国語科の説明的な文章において、児童が主体的に読みを深めるための仮説を下記のように設定した。

- (1) 書く活動として、「読む」ことと「書く」ことを関連づけた学習活動を工夫し、児童が読み深めたことを基にして説明文を書くことで、主体的に読みを深めることができるであろう。
- (2) 対話的活動を取り入れ、互いの考えを共有することで、考えを広げ、主体的に読みを深めることができるであろう。

2 検証計画

事前調査やテスト結果等から、児童の実態について把握・分析を行う。検証授業は2年4組で14時間程度実施する。検証授業では、児童の発言やつぶやき、本文への書き込み、ノート、ワークシートの記述、振り返り等により、児童が主体的に読み深めることができたかどうかを考察する。単元学習

後にアンケートを実施し、事前調査との比較・分析を行い、本研究の効果を検証していく。

検証授業の対象：白川小学校 2年4組〔男子11名女子13名計24名〕		主な検証方法				
1 事前調査	○国語に関する事前アンケート（11月） ○既習テストの結果を分析（11月）	・事前アンケートの分析 ・諸テストの分析				
2 検証授業	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>検証の観点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ・第1時（12/2）3校時 ・第2時（12/8）3校時 ・第3時（1/10）4校時 ・第4時（1/10）5校時 ・第5時（1/11）3校時 ・第6時（1/12）3校時 ・第7時（1/15）3校時 ・第8時（1/17）5校時・本時 ・第9時（1/18）3校時 ・第10・11時（1/19）34校時 ・第12時（1/22）3校時 ・第13時（1/23）5校時 ・第14時（1/24）3校時 </td> <td> （1）筆者の説明文のわかりやすい工夫を活かすことで、オリジナル説明文の文章構成を書くことができたか。 （2）文章構成をもとに、自分の考えを伝えたり、友達の考えに触れたりすることで、思考が広がり、主体的に読みを深めることができたか。 </td> </tr> </tbody> </table>	日程	検証の観点	・第1時（12/2）3校時 ・第2時（12/8）3校時 ・第3時（1/10）4校時 ・第4時（1/10）5校時 ・第5時（1/11）3校時 ・第6時（1/12）3校時 ・第7時（1/15）3校時 ・第8時（1/17）5校時・本時 ・第9時（1/18）3校時 ・第10・11時（1/19）34校時 ・第12時（1/22）3校時 ・第13時（1/23）5校時 ・第14時（1/24）3校時	（1）筆者の説明文のわかりやすい工夫を活かすことで、オリジナル説明文の文章構成を書くことができたか。 （2）文章構成をもとに、自分の考えを伝えたり、友達の考えに触れたりすることで、思考が広がり、主体的に読みを深めることができたか。	・各時間のめあてをもとにした自己評価 ・授業観察（発言、態度等） ・ワークシート ・ノート（自己、他者評価） ・毎時の振り返り ・授業記録（写真、ビデオ等）
日程	検証の観点					
・第1時（12/2）3校時 ・第2時（12/8）3校時 ・第3時（1/10）4校時 ・第4時（1/10）5校時 ・第5時（1/11）3校時 ・第6時（1/12）3校時 ・第7時（1/15）3校時 ・第8時（1/17）5校時・本時 ・第9時（1/18）3校時 ・第10・11時（1/19）34校時 ・第12時（1/22）3校時 ・第13時（1/23）5校時 ・第14時（1/24）3校時	（1）筆者の説明文のわかりやすい工夫を活かすことで、オリジナル説明文の文章構成を書くことができたか。 （2）文章構成をもとに、自分の考えを伝えたり、友達の考えに触れたりすることで、思考が広がり、主体的に読みを深めることができたか。					
3 事後調査	○事後アンケート（1月） ○単元テスト・振り返りシート（1月）	・事後アンケートの分析 ・振り返りシートの分析 ・授業記録、児童の感想等の分析				
4 まとめ	○「読む」ことと「書く」ことを関連づけた手立てと対話的活動を取り入れることは、児童が主体的に説明的な文章を読み深めることに繋がったか。	・事前・事後のアンケートの比較分析・結果のまとめ・考察				

Ⅲ 研究内容

1 児童が主体的に読みを深める学習指導の工夫

(1) 主体的とは

新学習指導要領における「主体的な学び」の姿について那須（2017）は、意欲を持って学ぶことにとどまらず、学びに向かう意志を持って意識的に自覚的に学習に向かい、自分の将来にどうつながっていくか、教科で学んだことをヒントにどのように学び続けていくかなどキャリアと関わらせながら学習していく態度が大切だとしている。また、樺山（2016）は、主体的とは、子ども達が学習している内容を自分事として捉え、活動していることであり、一人一人が個性的に動き、その教科の本質に向かうように教師が上手に導いてあげることの両方が必要であるとしている。また、主体的な学びの過程には、「見通しと振り返り」という概念が必要であり、この概念は、1単位時間の中でも大切だが、単元全体を通して児童自身が何をどのようになぜ学ぶのか、学習の進捗状況を評価しながら獲得した国語の力は何かを自覚していくことであると述べている。

本研究では、課題を自分の生活やキャリアと結び付けることを意識しながら、学習のゴールに向かい自分達で読みの計画を立てたり、課題解決のために自力で読み深め、言葉に着目し自分の考えを伝え合ったり、互いのよさを見つけ比べたりしながら考えを深めることで児童が主体的に読みを深めることができるように工夫する。

(2) 主体的に読みを深めるとは

玉城（2014）は、「子どもがしっかりと教材文と対峙する場と時間を設定し、『あれ？どうして』『ここが分からない』『不思議だな』と思い始めた時に主体的な読みの学習が始まる」と述べている。また、「読む必然性を持たせ、目的達成のためにどのように読めばよいのか、その読みで学んだことを表現にどう繋げていくかを子どもが考えながら読むことで主体的な読みとなる」とも述べている。

このことから、主体的に読みを深めるとは、児童が目的意識や見通し、自分の考えを持ちながら教材文を読み、読み取ったことを活かし、自分の考えていること、説明したいことを自分の言葉で筋道を立てて伝えることと捉える。本研究では、「オリジナル説明文」を書くという目的意識を持

たせ、一人学びによって「問い」を持ち、その解決を図りながら、筆者の書き方の工夫を見つけさせる。また、読み取ったことを活かして説明文を書く表現活動に繋げることで、主体的に読みを深める児童を育てていく。

(3) 説明文における学習指導の工夫

玉城（2014）は、説明文教材において身に付けさせたい力として、①論理的な筋道を読み取る力 ②論理的に思考し表現する力などの「論理的思考力」があると述べている。また、この思考力は低学年において、事柄同士を比較したり他者の考えや表現を比較したり順序よく読んだり書いたりすることで培われるとも述べている。さらに、論理的思考力の要素を学習指導要領の各学年の指導事項と関連づけた表1において、身に付けさせたい力を示している。

本研究では、低学年において、「読むこと」の指導事項である時間的な順序や事柄の順序等を考えながら読むことと共に、文章構成や文章表現上の順序についても重点的に取り上げ、論理的に書く段階において児童の読みを深める。また、読み取ったことを活用する際、必要な情報を自己選択できるようにする工夫として、児童同士の考えや教材文と教師の自作説明文などを“比較”させることを取り入れ、主体的に読みを深めていくことへと繋げていく。

表1 思考力の要素のとらえ

低学年	順序	物事の手順、時間・空間・因果・関心の強さや重要さなどで順序づける力
	比較	いくつかの物事を、同じところ、違うところ、似たところなどの目をつけて比べ、性質や特徴を明らかにする力
中学年	類別	目的に合う観点を決めて、いくつかの物事を他と区別したりまとめたりする力、また、類や層を明らかにする力
	理由づけ	物事を引き起こした原因関係などを明らかにする力
高学年	定義づけ	物事を抽象化して表したり、簡略に表したりする力、また、そのような言葉の意味内容を明らかにする力
	推理	知識や経験を基にして、「知らない・分からない・これから」などの事物について、筋道を立てて推し測る力

(4) 対話的活動について

新学習指導要領国語編では、国語科における「対話的な学びの視点」として、①子ども同士、子どもと教師が互いの知見や考えを伝え合ったり議論したり協働したりすること、②本を通して作者の考えに触れ自分の考えに生かすこと、③互いの知見や考えを広げたり、深めたり、高めたりする言語活動を行う学習場面を計画的に設けることが示されている。長崎・村田（2011）は、一連の学習過程の中では、「テキスト（教材）との対話」「他者との対話」「自己内対話」という対話的活動が行われることが必要であると述べている。

、対話的な学びによって得られる知識について那須（2017）は、「これからは知識観が変わってくる。一人の子どもが本から得た知識を再構成するだけでなく、それぞれの子どもが持っているいろいろな知識とかイメージとか考え方とか感情とかをお互いに出し合うことで、より納得のいく知識をつくり続けていく。」と述べている。

本研究では、一人学びを取り入れ、児童が教材とじっくり対話できるよう時間を確保し、筆者の考えや疑問等について自分の考えを持ち、読み深めていくことができるように工夫する。また、読み取ったことや自分の考えを伝えるペアやグループ活動を計画的に取り入れ、考えを広げ深めていく。さらに、オリジナル説明文を書く段階では、考えを交流することで自分の考えや相手の考えのよさ、違いに気づき、友達の考えを取り入れたたり、アドバイスをしたりし、読み取ったことを活かして説明文が書けるように児童同士の対話を取り入れる。児童が互いの考えを伝え合い、共有することで、よさに気づき確かな読みとして深めていくことができるようにする。

2 「読む」ことと「書く」ことを関連づけた書く活動について

(1) 一人学びについて

一人学びについて玉城（2014）は、『一人学び』は、児童が集団で学ぶために一定の力を付けて臨むことを前提にし、主体的に学んでいくための重要な時間である」と述べている。また、「各自

が主体的に読み取り自分の考えをもって臨むからこそ、自分の意見と他人の意見の違いに気付き、これまで気付かなかった考えを自分の中に取り入れていくことができ、一人学びと集団での学びは互いに相乗効果を生み出す」と述べている。さらに、「一人学びによって身に付く力は、①主体的に学ぶ力、②考える力、③書く力、④活用力があり、論理的思考力や表現力を育てることに繋がっていく」と述べている。本研究では、主体的に読みを深める手立てとして「一人学びの手引き」を作成し、音読と書き込み（分からない漢字、言葉の把握）、視写による読み取り、読み深めた中で疑問や考えたことを書き出す等「読む」と「書く」ことを関連付けた書く活動を設定し、そのための時間の確保をする。児童一人一人が主体的に教材文と対峙し、自分なりの「問い」や考えをもって授業に参加し、互いの考えを交流させ、主体的に読みを深めていくことができるように取り組ませる。そして、児童が読み深める過程の疑問やもっと調べてみたいこと、不思議に思ったこと等を中心に学習計画を立てることで、読みの計画、読み進め、振り返りができるようにする。

(2) 論理的記述力（型）について

児童が主体的に読み取り、インプットしたこと（分かったこと、考えたこと、疑問に思ったこと等）をアウトプット（話す、伝える、書く等）することで、さらに深い読みとなる。そのアウトプットをする際に必要な力として、論理的な記述力が必要だと考える。筋道を立てて分かりやすく書いたり、話したりすることは、説明文教材において身に付ける力であるが、説明文以外の文章においても、自分の考えを書くことは、他教科を含め日々の生活の中にあふれている。このような自分の考えを書く活動において論理的に書くということは実社会において必要な国語の力として重要と考える。そこで、読み取ったことを筋道を立てて分かりやすく書くための「型」として論理的記述の指導も取り入れる。

(3) 語彙指導について（辞書引き、言葉通帳、言葉遊び、並行読書）

平成 28 年 12 月中央審議会の答申では、「小学校低学年における学力の差はその後の学力差に大きく影響すると言われる中で、語彙の量と質の違いが学力に大きく影響している」と述べている。松川（2017）は、語彙の量と質の違いは、文章に書かれた内容を的確に捉える力や、自分の考えを形成し、表現する力と密接な関わりがあり、低学年でこれらの力が十分に育たないと、その後も「わからない」「うまく伝えられない」という負の連鎖が続き、結果的に学力の伸びが止まってしまう、と述べている。語彙は、ものの見方、考え方、感じ方、表し方などを広げ、深めていく学びの実現において、身に付け豊かにすることが必須であり、授業において言葉や言葉と言葉の関係等について取り上げ、言葉に着目、意識させることが必要と考える。

このことから、本研究においては、児童一人一人が自立的に内容を捉え自分なりの考えをもち、他者との意見交流で理解しながら考えを広げ、深めていくことで主体的な読みへと繋げていく。そして、一人一人の言葉を意識して取り上げ、学級皆の使える言葉となるよう指導していく。

(4) 学びの評価について

「中教審審議のまとめ（報告）」では、「資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動に取り組ませるパフォーマンス評価を取り入れ、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である」としている。

西岡（2016）は、パフォーマンス評価をする際、成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対応する特徴を記した記述語からなる評価基準の作成が重要としている。また、ポートフォリオ評価については、子どもが自らの学習のあり方について自己評価することを促すとともに、教師も子どもの学習活動と自らの教育活動を評価するアプローチであるとしている。

これらのことから、深い学びは、児童の見えない学びの深まりをしっかりと見取り、評価していくことで実現すると捉えられる。本研究でも評価の対象となる課題、評価基準となるルーブリックを作成し学びの評価を行っていく。

IV 検証授業

1 単元名 「世界に1つだけのオリジナル説明文を書こう！」

2 教材名 「あなのやくわり」(東京書籍2年)

3 単元設定の理由

(1) 教材観

本単元の重点指導は、学習指導要領におけるC「読むこと」(1)エ「文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと」、オ「文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと」である。本教材は、「穴は何のためにあいているのか」を説明している文章である。形式段落ごとの内容のまとまりにより大事な言葉や文が見つけやすく、構成も捉えやすい。そして、身近な物が例に挙げられ、児童にとっても自分の経験と結び付けて穴の役割を読み取ることができ、考えを広げていきやすい教材といえる。児童はこれまで、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読み取ることが学習してきたが、その力を活用して文章の内容と自分の経験とを結び付けて読む経験は十分ではなかった。そこで本単元では、内容を読み取る力だけではなく読み取ったことと自分の経験を結び付けながら自分の思いや考えをまとめ、身近にある穴の役割について説明文を書くという言語活動を設定する。それにより、児童が自分の経験と結び付けて考えたことを説明する力を身に付けられると考える。

(2) 指導観

本単元において、内容を読み取る力を身に付けさせるために、説明の仕方に気を付けて、「なぜ穴があいているのか」という理由を考えながら読むことができるようにする。そこで、一人学びを取り入れ、音読、言葉の意味調べ、視写、疑問やもっと調べてみたいことなどの書き込みをすることで、一人一人の内容理解のレディネスをそろえるようにする。また、「問い」を持たせることで、穴の役割やあいている理由を主体的に読み取れるようにさせたい。さらに、見つけた穴について説明文を書く言語活動を設定し、教師がモデルを提示することで、目的意識を持ち主体的に学習が進められるようにする。

自分の経験と結び付けて考えたことを説明することができるように、論理的に説明する力(書く力)を身に付けさせる。そのために、事柄の順序に沿って内容を読み取り、文章構成(始め・中・終わり)を中心に、形式段落(4文構成)、大事な言葉(キーワード)、接続詞、文末表現、挿絵などの、筆者の書き方の工夫を読み取らせる。そして、読み取ったことを活かし書く活動へ移行する際には、下書きメモ(文章構成)を書かせる。その際、教師の下書きメモ(文章構成)を提示し、筆者の工夫をどのように取り入れるとよいかを考えさせる。また、下書きメモに記入する大事な言葉(キーワード)にもこだわり着目させることで、活用できる語彙を増やすことにも繋げたい。さらに、下書きメモから文章を書かせる際には、接続詞や文末表現など児童の説明したい穴によって違いがあることに気付かせ、画一的な文章にならないようにする。

単元全体において、対話的活動を取り入れていくことで、主体的な読み深めができるようにする。評価においては、ポートフォリオ評価で児童の考えの深まりを見取り、パフォーマンス評価でルーブリック(評価基準)の作成をし最終的な読みの深まりを評価する。また、2学年の説明文単元において身に付けるべき事項については、自作の単元末テストで評価できるようにしていく。

4 単元の指導目標

(1) 単元の目標

- ① 自分が見つけた「あな」の役割について、オリジナルの説明文を書こうとすることができる。
(国語に対する関心・意欲・態度)
- ② オリジナルの説明文を書くために、なぜ穴があいているのかや、筆者のわかりやすい説明の工夫についてなど、文章の中の大事な言葉や文を見つけながら読み、読み取ったことをオリジナルの説明文に活かすことができる。(読むこと)

- ③ 主語と述語とを照応させて読んだり、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付いたりすることができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

(2) 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・知りたいことや興味をもったこと、事物の仕組みなどについて説明した本や文章を主体的に読み深めようとしている。	・文章の中の大事な言葉や文を書き抜いている。(エ) ◎事物の説明などについて説明した文章を読み、文章の内容と自分の経験とを結び付けて説明文を書いたり、説明文を書くために必要な知識を得るために本や文章を読むなどのめあてや見通しをもったりしている。(オ)	・言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付いて文や文章を読んでいる。 ・主語と述語との照応関係に注意して、つながりのよい文章を書いている。

(3) 単元の指導・評価計画 (全14時間)

次	時	学習活動	評価規準 (評価方法) ◆検証の視点 (方法)
第一次	1	●教材文「あなのやくわり」と出会う。 ①「あな」とは何かを考える。(ウェビング) ②「あなのやくわり」の教師の範読を聞く。 ③初めてわかったこと、疑問に思ったこと、もっと知りたいこと、感想などを書く。	□評価規準 (評価方法) ◆検証の視点 (方法) 関 身の周りの穴のあいているものに興味を持ち、これからの学習に意欲をもって取り組もうとしている。(ワークシート・感想)
	2	●一人学びの進め方を知る。 ①「一人学び」の仕方を知る。→一人学びの手引き ②分からない言葉や語句、漢字を辞書で調べる。 ③自分の疑問を解決する。	関 「あなのやくわり」を読んで、分からない言葉や語句を辞書で調べたりしている。(ノート)
	3	●学習の計画を立て、見通しをもつ。 ①単元のゴール「教師の作品」を示し、その作品をつくるために必要な力について考える。 ②子ども達の言葉(前時の感想)をもとに、ふしぎに思ったこと、もっと知りたいこと等確認する。 ③ゴールから逆算し、自分たちで学習計画を立てる。 ④身につけた力が今後生活の中でどのように生きてくるか、将来役立つか等、折に触れて考える。 ⑤自分の説明文に書きたい、「穴」を見つけておくことを知り、学習を振り返る。	関 学習の見通しをもち、あなの役割について考えようとしている。(ノート・感想) 
第二次	4	●文章構成(全体)について自分たちで考える。 ①形式段落を確認する。 ②既習の教材で文章構成(始め・中・終わり)を確認し、自分達で構成を考える。 ③自分の説明文へどのように取り入れるか考える。 ④学習の振り返りをする。	関 教材文を読んで内容の大体をつかみ、「始め」「中」「終わり」の構成をとらえている。(ノート・発言)
	5	●分かりやすい説明文の書き方について、筆者の工夫を読み取る。 ①文章(各段落)のパターンを知る。(4文) ②「大事なことば」について読み取る。 ③段落内における文と文との関係について考える。 ④自分の説明文にどのように取り入れるか考える。 ⑤児童が見つけた筆者の工夫の「ひみつ」をまとめ、学習を振り返る。	関 それぞれの物に穴があいている理由について、大事な言葉や文を見つけながら読んでいる。(ワークシート・発言)
	6	●分かりやすい説明文の書き方について、筆者の工夫を読み取る。 ①「大事なことば」について読み取る。 ②段落内における文と文との関係について考える。 ③自分の説明文にどのように取り入れるか考える。	関 それぞれの物に穴があいている理由について、大事な言葉や文を見つけながら読んでいる。(ワークシート・発言)
	7	●挿絵の役割について考える。 ①なぜ写真があるかを「ない時」を想定して考える。 ②写真と絵との違いを考え、絵の効果を見つける。 ③絵や写真と文章をつなげて、分かりやすい説明のひみつに気づかせる。 ④「オリジナル説明文」にどのように取り入れるか考える。 ⑤児童が見つけた筆者の工夫の「ひみつ」をまとめ、学習を振り返る。	関 写真や図などの挿絵と文章とを結び付けて読んでいる。(ワークシート) 
	8	●「オリジナル説明文」の文章構成を書く。 ①教師の文章構成を提示する。 ②自分の選んだ「あなのやくわり」について、筆者の工夫(ひみつ)を基に文章構成を考える。 ③自分の文章構成のキーワードを友達に伝える。 ④友達の良いところ、真似したいところを自分の説明文(文章構成)に取り入れてもよいことを知り、学習の振り返りをする。	関 筆者の工夫を取り入れて自分の選んだ「あなの役割」の文章構成を書いている。(ノート、発言) ◆筆者の説明のわかりやすい工夫を活かすことで、自分の説明文の文章構成を書くことができたか。 ◆文章構成をもとに、自分の考えを伝えたり、友達との考えに触れたりすることで、思考が広がり、主体的に読みを深めることができたか。

第三次	9 10 11 12	<p>●「オリジナル説明文」を書く。 ①教師の文章構成と自作説明文を提示し、キーワードから文へ移行するための手順を説明する。 ②筆者の「分かりやすい説明の工夫」(ひみつ)から自分に必要な工夫を選び説明文を書く。 ③自分で書いた説明文をについて友達に伝え、よさやまねしたいところを見つけ取り入れる。 ④学習の振り返りをする。</p>	<p>☆並行読書</p> <p>読 筆者の工夫を取り入れて自分の選んだ「あなたの役割」の説明文を書いている。 (ノート、発言) ※パフォーマンス評価(レベル1～5)で評価</p> <p>◆「オリジナル説明文」に筆者の工夫「ひみつ」を取り入れて文章を書いている。 ◆ペアやグループで自分の書いた文章構成について伝え合うことで、互いの文章のよさや違いに気づき、考えを深めている。</p>
	13	<p>●グループで「オリジナル説明文」発表会をする。 ①友達の作品のよさ(わかりやすい説明の工夫)を見つけて読むことができる。 ②自分と同じところ、違うところを見つけ、考えを広げることができる。(付箋紙でコメントをプレゼント) ③自分以外の人に読んでもらい、自分の考えを伝えることについて感想を書き、学習の振り返りをする。</p>	<p>読 友達の説明の工夫や文章・挿絵等の工夫など、対話を通して考えの再構成をしている。 (感想・発言)</p>
	14	<p>●みんなで「オリジナル説明文」の発表会をする。 ①友達の作品のよさ(わかりやすい説明の工夫)を見つけて聞くことができる。 ②自分と同じところ、違うところを見つけ、考えを広げることができる。(付箋紙でコメントをプレゼント) ③単元全体を振り返り、どのような力が身についたのか、その力は今後どんなことに役立つかを考える。 ④単元全体の振り返りをする。</p>	<p>読 友達の説明文を読み、わかったこと、説明の工夫を見つけている。(感想・発言) 関 単元全体を振り返り、今後の学習(国語、他教科)、自分の生活、将来と結び付け考えている。 ※事柄の順序、文章構成、筆者の工夫の確認テスト実施(自作テスト)</p>

5 本時の指導(第8時/14時間)

(1) 本時のねらい

- 教材文の文章構成や説明の仕方を生かし、「自分で見つけた穴のあいている物の説明文」の文章構成を考えることができる。(読むこと イエオ)

(2) 授業仮説

- ① 筆者の説明文のわかりやすい工夫を活かすことで、「オリジナル説明文」の文章構成を書くことができるであろう。
- ② 文章構成をもとに、自分の考えを伝えたり、友達の考えにふれることで、思考が広がり、主体的に読みを深めることができるであろう。

(3) 本時の展開

	主な学習活動・発問	○教師の支援◎留意点C 児童の反応	◇本時の評価 □検証の視点
導入 10分	1 前時までの学習を振りかえる。 ・筆者のわかりやすい説明の工夫にはどんなものがあったかな。(5分)	○これまでの筆者の説明文のわかりやすい工夫や「大事な言葉」について振り返らせる。◎キーワードの確認をする。 ◎黒板に文章構成表を完成させる。	検証の視点1 ① 文章構成に穴の役割やくわしい説明などを書いている。
	2 本時のめあてを確認する。 ・説明文を書くためにまず始めに何をしたらよいですか。(5分) めあて 「オリジナル説明文」の下書きメモを書く。	C:本番の文章を書く前の準備や下書き。	検証の視点1 ② 自分の文章構成の中から、キーワードとなる言葉を見つけ、ワークシートに書いている。
展開 28分	3 それぞれの選んだ「あな」を確認する。	○穴について調べてきたことをまとめたメモを基に、構成を考えさせる。	検証の視点2 ① 自分の文章構成について友達に伝えている。
	4 「あなのやくわり」の文章構成を基に「オリジナル説明文」の文章構成を書く。 ・先生の文章構成を見てみよう。(5分) ・自分の文章構成を考えよう。(10分)	○教材文の文章構成を参考に自分の「オリジナル説明文」の構成を考える。 ◎教師の文章構成を提示し、より児童自身の文章構成に結びつくようにする。 ◎児童の実態に応じたワークシートを準備する。	検証の視点2 ② 友達の文章構成(キーワード)について、感想を述べたり、アドバイスをしたりしている。
	5 考えをペアで交流する。(8分)	○互いの文章構成を説明し、キーワードについての感想やアドバイスを伝えさせる。	
	6 考えを全体で交流する。(5分)	○完成した児童の文章構成を実物投影機で紹介し、キーワード等を共有する。	

まとめ 7分	7 学習のまとめをする。(3分)		 <p>◇ 自分で見つけた穴のあいている物の説明文について、文章構成やその穴の役割、事柄の順序について考えている。 【読むこと】</p>
	8 学習の振り返りをする。(4分)	<p>まとめ キーワードを入れて下書きメモを書くことができた。</p> <p>○筆者のものの見方・考え方を伝える。 ○自分の「オリジナル説明文」を書くために、考えたこと（筆者の工夫で真似できたこと）は何かを振り返り書かせる。(文の頭、つなぎ、文末表現) ○次時にしたいこと、どんな「オリジナル説明文」にしたいか等も考えさせる。</p>	

(4) 本時の評価

- 自分で見つけた穴のあいている物の説明文について、文章構成やその穴の役割、事柄の順序について考えている。(発言・活動・ワークシート・ノート)

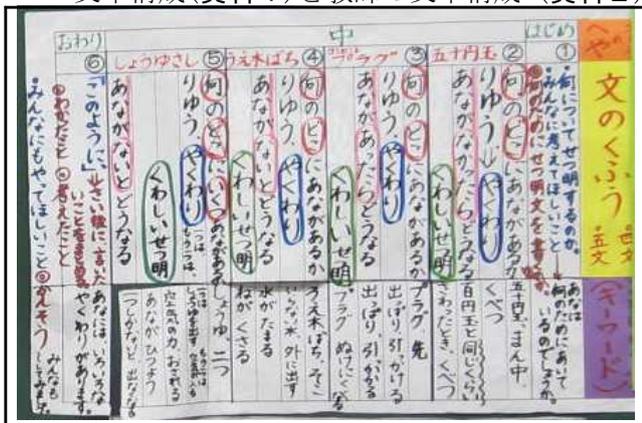
V 研究の結果と考察

1 授業仮説の検証

(1) 筆者の説明文のわかりやすい工夫を活かすことで、オリジナル説明文の文章構成を書くことができたか

「オリジナル説明文」を書くために、児童は前時までに筆者の工夫を見つけてきた。筆者の工夫は、①「始め・中・終わり」の構成、②文章のパターン化（4文構成）、③接続詞や文末表現の工夫、④説明する上で大事な言葉（キーワード）、⑤挿絵の工夫である。

第8時では、読み取った筆者の工夫を児童の文章構成へと活かすことができるように、筆者の文章構成(資料1)と教師の文章構成(資料2)を提示した。



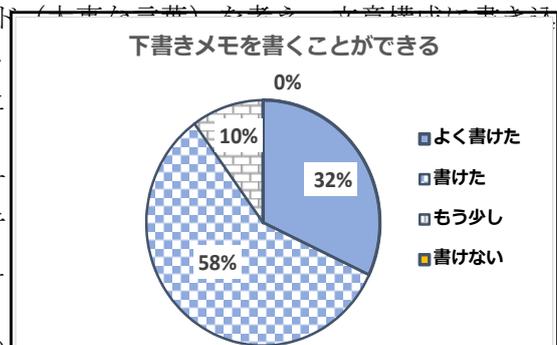
資料1 筆者の文章構成



資料2 教師の文章構成

教師の文章構成は、児童の下書きメモ（文章構成）と同様のワークシートに書き、分かりやすく示した。筆者の文章構成と教師の文章構成を比較させ、必要な工夫を取り入れたことで、説明文が分かりやすくなることに気付かせた。児童は教師の文章構成を参考にしながら、自分の説明したい穴について、役割やくわしい説明、キーワード（大事な言葉）を考えた。また、自力解決に抵抗のある児童には、ヒントを書き加えたワークシートを用意し、手立てを講じたことで、自力で書くことができた。

教師が筆者の工夫を取捨選択した文章構成を提示することにより、児童が大事な言葉や、文の工夫、筆者の工夫を活かし、文章構成を書くことができたと考える。(資料3) このことにより、筆者の説明文のわかりやすい工夫を活かしたことで、オリジナル説明分の文章構成を書くことができたと考える。



資料3 文章構成の評価

(2) 文章構成をもとに、自分の考えを伝えたり、友達の考えに触れたりすることで、思考が広がり主体的に読みを深めることができたか

児童が主体的に読みを深めるために、ペアでの対話的活動を取り入れた。自分で書いた文章構成について友達に説明することで、互いのよさや相違点に気付く児童が多く見られた。また、互いの「キーワード」から、考えたことを伝え合うことで、新たなヒントとして受け取ったり、友達にアドバイスする児童も見られた。そのことにより、児童は、自分の考えが広がり、文章構成を再構成することで主体的に読みを深めることができたと考える。(資料4) 筆者の工夫であるキーワード(大事な言葉)に視点をあて、対話的活動に取り組んだことで、言葉にこだわり文章構成を書き上げていくことができた。自分の文章構成が、対話的活動によって、完成していくことで、主体的に読みを深めることにつながったと考える。



資料4 児童振り返り

2 研究仮説の検証

研究の考察は、事前・事後アンケート、ノートやワークシートの記述、授業観察を基に行った。

(1) 「読む」ことと「書く」ことを関連づけた学習活動を工夫し、児童が読み深めたことを基にして説明文を書くことは、児童が主体的に読みを深めることにつながったか

① 問いこそ主体的学びの原動力

主体的に読みを深めていくためには、児童一人一人が問いを持つことが重要だと考える。児童は、分かったことや不思議に思ったこと、疑問等を考えながら読むことにとっても意欲的で、90%の児童が疑問(問い)を自力で見つけることができると答えていた(図2)。

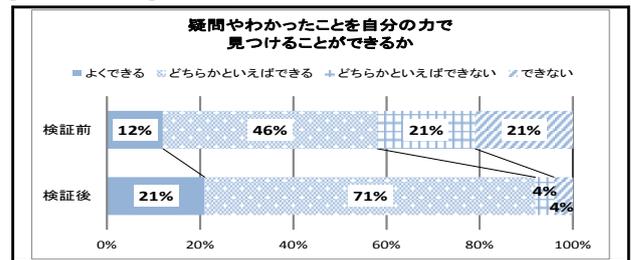


図2 自力解決に関するアンケート

本研究では、書く活動として、「読む」と「書く」ことを関連づけた指導として、一人学びを取り入れた。一人学びでは、教材文を視写しながら読み進め、疑問やわかったこと、調べてみたいこと等を見つけていった。児童一人一人が「問い」を持ち、教材文を読み進めていく意欲的な姿から主体的に読みを深めることができたと考える。資料5は、児童が一人学びにより、「問い」や「調べてみたいこと」を見つけながら視写したノートである。児童は、読み深めていく中で、「問い」に対する「答え」を見つけ、解決することを繰り返し、読みを深めていったと考えられる。単元の導入時には、児童一人一人の「問い」を把握し、自分ですぐに解決できる「疑問」、みんなで解決したい「疑問」など、「問い」の質についても考えさせた。(資料6) その解決を学習計画へ取り入れ、自分達で計画を立て学習を進めていくという意識を持たせ、学習をスタートさせていった。また、自分で見つけた穴の役割を伝えるために「オリジナル説明文を書く」ことを単元のゴールとして示し、自分で見つけた穴の役割は何なのかという「問い」



資料5 一人学びノート

ていったと考えられる。単元の導入時には、児童一人一人の「問い」を把握し、自分ですぐに解決できる「疑問」、みんなで解決したい「疑問」など、「問い」の質についても考えさせた。(資料6) その解決を学習計画へ取り入れ、自分達で計画を立て学習を進めていくという意識を持たせ、学習をスタートさせていった。また、自分で見つけた穴の役割を伝えるために「オリジナル説明文を書く」ことを単元のゴールとして示し、自分で見つけた穴の役割は何なのかという「問い」

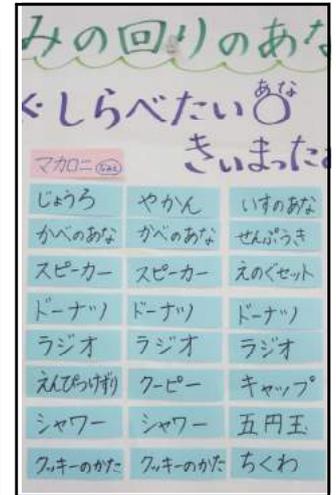
について考えていくことを、主体的な読みの原動力としていった（資料7）。さらに、問いを解決していく手立てとして対話的活動（教材との対話・他者との対話）を取り入れたことで、友達の考えに触れたり、教材と対峙したりし、主体的に読みを深めていく活動へと展開していった。身の回りの穴を見つけ、その穴の役割について考えられるよう、穴について書かれた図書資料を第1時から並行読書として提示したことで、児童は穴を見つけるたびに

本を読み、課題の解決に夢中になっていた。

これらのことから、「読む」ことと「書く」ことを関連づけた書く活動を取り入れることは、児童が「問い」を持ち、それを原動力として主体的に読みを深めることにつながったと考える。



資料6 児童一人一人の疑問



資料7 調べたい穴について

② 「読む」ことから「書く」ことへの転換

低学年の段階において、主体的に読みを深めさせる学習指導の工夫として、「読む」ことから「書く」ことへ転換していく際の手立てが重要だと考える。

読み取ったことを生きて活用できる知識として定着させ、自分の言葉として体得するためには、「書く活動」を取り入れていくことが必要である。その際の手立てにより、児童の書くことへの意欲が高まったことが、アンケートの結果からうかがえる（図3）。

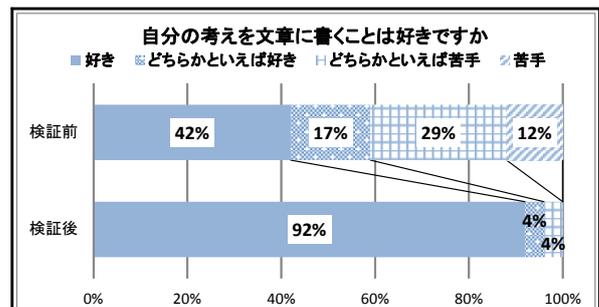


図3 書くことについてのアンケート

その手立てとして、読み取った筆者の説明の工夫を文章構成に書く段階、文章構成から下書きに移る段階において、教師のモデルを提示し、筆者の文章構成や教材文からわかりやすい工夫をどのように取り入れていくかを示した。その際、筆者の工夫を取捨選択していることに気付かせるよう工夫した。児童一人一人、説明する穴の役割が

違うことから、取り入れる筆者の工夫もそれぞれ変わってくることを理解させ、「自己選択する」ことで主体的に読みを深めることにつながっていった。児童は、自分の文章構成、教師のモデル、教材文を何度も行き来し、友達との対話を繰り返す中で、児童なりに筆者の工夫選択し、オリジナル説明文を書き進めた。書くことに抵抗のあったある児童が、必要な掲示物がないと訴えてきた。書くことが浮かばないと座っていることが多かった児童が、書きたいことと書き方のヒントとなる資料を結び付け、自分なりに選択することで主体的に読みを深めていった。資料8はその時の児童と教師のやりとりである。

文章構成（下書きメモ）から下書きへ移る場面

T: 下書きメモのキーワードを見ながら、どの「頭、おなか、足元の言葉」を使えばよいか考えながら書いて下さいね。

S1: 先生、丹伊田弓子さん（筆者）の下書きメモ（文章構成）を黒板に貼ってください。

T: 筆者の文と自分の文を比べるんだね。

S1: くわしい説明（4文目）の「足元の言葉」はどれが合うかな…僕の、「ラジオの穴がないと音が出ない」と同じなのは…（4つの筆者の文末表現を比べて）…しょうゆさしの穴が1つしかないよ。しょうゆが出なくなってしまうのです。あ、これだ！

T: OOさんの文だとどうなるの？

S1: ラジオの小さな穴がないと、音が出なくなってしまうのです。しょうゆさしと同じだった。

T: 穴がないと、大変なことになってしまうんだね

資料8 児童と教師とのやりとり

児童が書き上げた「オリジナル説明文」の評価は、記述語からなるルーブリック（評価基準）を作成し、文章構成の工夫や内容、主述の整合性などを評価した（表2、図4）。

表2 「オリジナル説明文を書く」のルーブリック（評価基準）

レベル	記述語
5 (素晴らしい)	筆者の工夫（始め中終わり、4文構成、キーワード、接続詞、文末表現、挿絵）を取り入れ、それ以上の工夫が見られる。（2つ以上の穴の説明、筆者の見方・考え方、キーワードの工夫、挿絵の工夫等）内容や主述の関係に整合性があり、自力で書いている。
4 (良い)	筆者の工夫を取り入れ、それ以上の工夫が見られる。（キーワードの工夫、挿絵の工夫）内容や主述の関係に整合性があり、自力（対話あり）で書いている。
3 (合格)	筆者の工夫を取り入れている。内容や主述の関係に多少のずれはあるが、自力（対話あり）で書いている。
2 (もう一步)	筆者の工夫が不十分（始め中終わり、4文構成にずれ、キーワード、接続詞、文末表現不十分、挿絵）内容や主述の関係に多少のずれがあり、対話や教師の支援で書いている。
1 (努力が必要)	筆者の工夫が取り入れられていない。（始め中終わり、キーワード、挿絵）内容や主述の関係に整合性がなく、誤字脱字が多く、教師の支援により書いている。

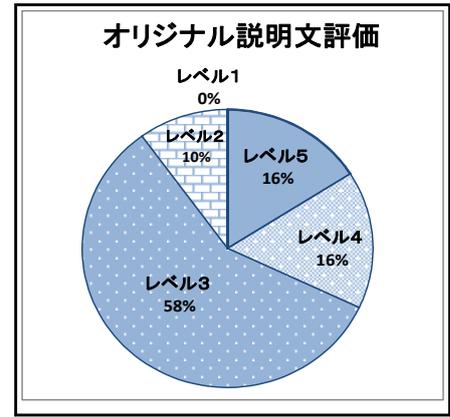
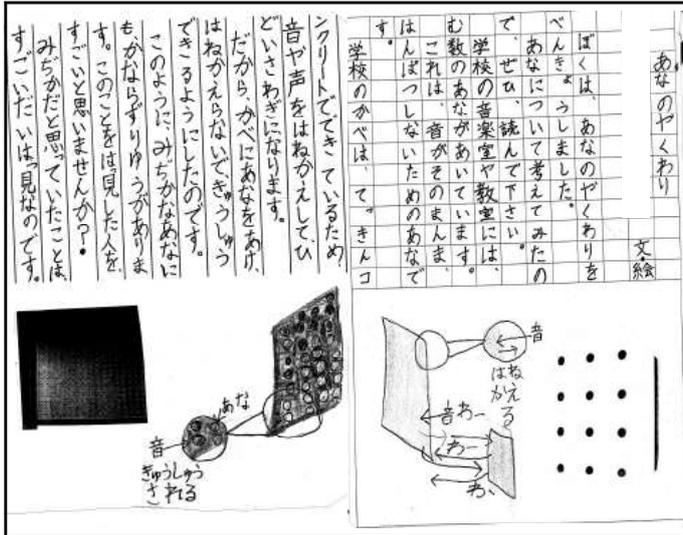
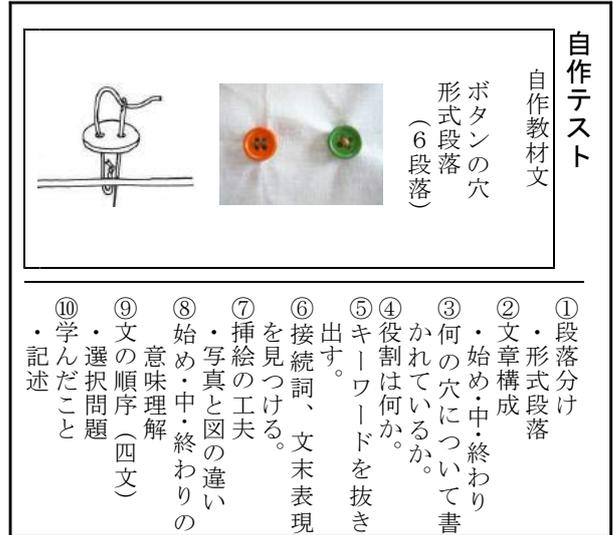


図4 オリジナル説明文の評価

児童の中には、筆者のものの見方を終わりの部分で表現し、大事な言葉にもこだわり「オリジナル説明文」を書き上げた児童もいた（資料9）。単元終末には、活用した工夫の理解度を確かめる自作テストを実施し、定着を図った（資料10）。これらのことから、「読む」ことから「書く」ことへ転換していく指導の工夫は、児童が主体的に読みを深めることに繋がったと考える。



資料9 レベル5の児童作品



資料10 自作テスト

(2) 対話的活動を取り入れ、互いの考えを伝えたり、友達の考えに触れたりすることは、児童が主体的に読みを深めることに繋がったか

安心して考えを話せる関係づくりとして、「聴き方指導」を対話の素地を育てる第一歩として行い、対話的活動を取り入れた（資料11）。相手を受け入れ認める姿勢、何を伝えたいのか考えながら聴く姿勢が対話的活動を成立させる鍵と考える。「読む」ことと「書く」ことを関連づけた本単元では、「読み取る場面」、「読みを書きに移行する場面」、「伝える場面」とそれぞれの段階に応じて対話的活動（教材文との対話、他者との対話、自己との対話）を取り入れた。「読み取る場面」では、一人学びの手順を知ることにより、児童一人一人が教材とじっくり対話し、疑問やその答えにあたる記述を見つけていくなど、主体的に読みを深めていった。その後、同じ課題を持つ仲間同士で対話することで、考えを比較し、より納得のいく答えになるよう話し合う姿が見られた（資料12）。「読みを書きに移行する場面」では、下書きメモの文章構成から、実際に文章にしていく段階において、ペアやグループ、全体の

- 聞き方名人
- 相手の目を見て聞く（体を向ける）
 - 正しい姿勢で聞く
 - 受け止める（うなずきながら）
 - 最後まで話を聞き取る
 - 相手が一番言いたいことは何か考えながら聞く

資料11 聴き方のポイント

交流で自分の書いた文章を伝え合った。よく書けた児童の文章を紹介したことで、接続詞や文末表現、始め、終わりの部分など、自分の文章の参考とし、付け加える工夫も見られたことから、対話的活動は主体的に読みを深めることに繋がったと考える（資料13-①）。

「伝える場面」の発表会では、筆者の工夫をどのように取り入れているか、わかったことや疑問に思ったことは何か等、聞く視点を与えて行ったことで、友達によさに気づくことができた。付箋紙に書いた感想に、新たな「問い」があることから、対話的活動は、主体的に読みを深めることに繋がったと考える（資料14-②）。

このように、多様な考えに触れる対話的活動を取り入れることにより、自分の考えを再構成し、筆者の工夫を取り入れた説明文を書くことができ、主体的に読みを深めることに繋がったと考える。また、自分の読み取ったことを友達と比較することで、互いのよさや相違点を見つけ、主体的に読みを深めていくことにも繋がったと考える。さらに、筆者や友達のものの方や考え方にも気づき、深い学びを生み出す手立てにもつながったと考える（資料15-③）。



資料12 納得のいく答えを考える場面



資料13 児童の振り返り

VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 一人学びを取り入れたことにより、児童一人一人が「問い」を持ち、その解決を原動力として主体的に読みを深めることができた。
- (2) 「読む」ことから「書く活動」へと移行する段階において、筆者の工夫を選択した教師のモデルを提示したことで、主体的に読みを深めることができ、多様なオリジナル説明文を書くことができた。
- (3) 対話的活動を取り入れ、教材・他者・自己と対話したことで、筆者の工夫をインプットしたりアウトプットしたりしながら、考えを再構成していき、主体的に読みを深めることができた。

2 今後の課題

- (1) 論理的な筋道を読み取る力と論理的な表現力をつける指導を系統立てて行い、児童が主体的に読みを深めるためのさらなる充実を図る。
- (2) 発達段階に応じた論理的な記述力を高める指導の工夫と、型の提示からオリジナルの文章へ移行していく系統立てた指導の充実を図る。
- (3) 主体的・対話的な学びを支える語彙力を定着させるための語彙指導の充実を図る。

〈主な参考文献〉

- | | | |
|--------------------------------|---|-------|
| 「国語教育」編集部『平成29年版学習指導要領改訂のポイント』 | 明治図書 | 2017年 |
| 筑波大学附属小学校国語研究部 | | |
| 『「深い学び」を考える～授業者からの提案～』 | 東洋館出版 | 2017年 |
| 西岡加名恵 | 『アクティブラーニングをどう充実させるか資質・能力を育てるパフォーマンス評価』 | 明治図書 |
| | | 2016年 |
| 村上呂里・玉城きみ子・辻雄二 | | |
| 『おきなわ小学校国語授業のあじまい』 | フォレスト | 2014年 |
| 長崎伸仁・村田伸宏『表現力を鍛える対話の授業』 | 明治図書 | 2013年 |